

試験研究成果普及情報

部門	森林保全	対象	普及
課題名：間伐と同時にスギカミキリ被害木を伐採、搬出した場合の防除効果			
〔要約〕 間伐と同時にスギカミキリ被害木を伐採、搬出することにより、被害率を5%程度まで低下させることができる。その後、被害率は徐々に高くなり、5年後には20%以上になる場合もあることから、被害率を低く維持するためには、被害木の見落としを減らし、定期的に被害調査と防除を行う必要がある。			
キーワード ^① スギカミキリ、防除、間伐、被害率			
実施機関名	主 査	農林総合研究センター	森林研究所
	協力機関	中部林業事務所	
実施期間	2010年度～2014年度		

〔目的及び背景〕

近年、スギカミキリによるスギ、ヒノキの被害が県内全域に拡大している。防除対策としては樹幹に粘着性捕虫バンドを巻きつける方法が有効であるが、資材が高価なことから林業経営において過重な負担となり実施が難しい。そこで、森林整備の一環として、間伐の際に同時に被害木を伐採、搬出することにより効率的な防除が可能かどうか明らかにする。

〔成果内容〕

- 1 森林整備の一環として、間伐の際に被害木を伐採、搬出することにより、被害率を5%程度まで低下させることができる（表1、図1）。
- 2 間伐直後の被害率が4.8%（平成22年度間伐区の平成22年度調査）となったのは、間伐時の被害木の見落としが原因と考えられる（表1、図1）。
- 3 被害率は年数の経過と共に上昇し、5年後には20%以上に上がる場合がある（図1）。
- 4 被害率を低く維持するためには、間伐時の被害木の見落としを減らすこと、定期的に被害調査及び防除を行うことが必要である。

〔留意事項〕

被害率が通常の間伐率よりも大幅に高い場合は、皆伐して改植することを検討する。

〔普及対象地域〕

県内全域のスギカミキリ被害林

〔行政上の措置〕

〔普及状況〕

[成果の概要]

表 1 調査年度別、被害度別の被害率

試験区	被害度	調査年度別被害率 (%)				
		平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
平成20年度間伐区 (本数間伐率26.3%)	1	1.0	1.0	4.0	6.9	10.1
	2	2.9	4.0	8.9	9.9	9.1
	3-1~3-5	2.9	5.0	6.9	8.9	10.1
	枯死	—	—	—	—	—
	被害率計	6.7	9.9	19.8	25.7	29.3
平成21年度間伐区 (本数間伐率29.3%)	1	1.8	0.9	0.9	0.9	1.8
	2	1.8	2.8	1.8	2.8	2.8
	3-1~3-5	0.0	1.8	5.5	10.1	11.0
	枯死	—	—	0.9	0.9	0.9
	被害率計	3.7	5.5	9.2	14.7	16.5
平成22年度間伐区 ¹⁾ (本数間伐率36.4%)	1	3.4	3.4	4.8	4.1	4.1
	2	0.7	2.1	2.1	4.8	5.5
	3-1~3-5	0.7	0.7	0.7	2.1	6.2
	枯死	—	—	—	—	—
	被害率計	4.8	6.2	7.6	11.0	15.9
無間伐区	1	3.7	4.8	7.8	7.8	10.8
	2	0.9	1.9	2.9	11.7	11.8
	3-1~3-5	0.9	5.7	6.8	7.8	7.8
	枯死	2.8	2.9	2.9	2.9	2.9
	被害率計	8.4	15.2	20.4	30.1	33.3

注1) 富津市鬼沼山県有林のヒノキ林(1973年植栽)における調査結果

2) 被害率は、立木本数の約10%の個体を対象としたサンプル調査によるもの

3) 平成22年度の被害率は、被害木除去直後の値

4) 被害度は、1が軽度、2が中度、3-1~3-5が重度の被害を示す

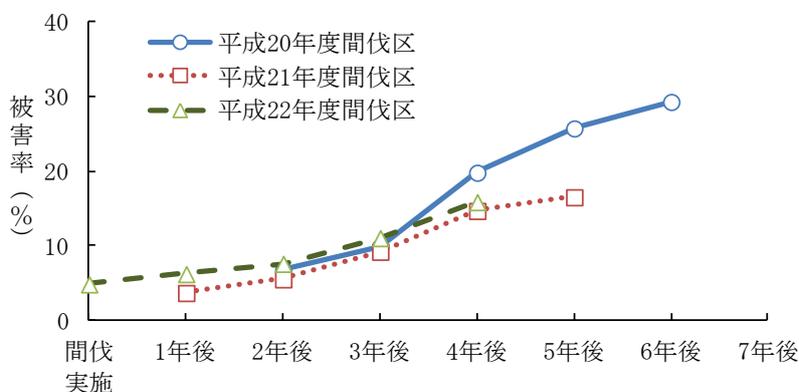


図 1 間伐と同時に被害木を伐採、搬出してからの年数と被害率の推移

[発表及び関連文献]

- 1 平成 27 年度試験研究成果発表会 (林業部門)
- 2 福島成樹ら、千葉県富津市におけるスギカミキリ防除を兼ねた間伐後の被害率の推移、関東森林研究 (発表予定)

[その他]

平成 21 年度試験研究要望課題 (提起機関: 森林課、中部林業事務所)